

ハートネットワークが提供開始 楽しいGUIのデータ放送誕生 スマホアプリ連動で地域情報配信



デジタル放送の新機能として注目を集めたデータ放送だが、市民権を得たとは言い難い。そんな状況下で、思わず使いたくなる、楽しいGUI(Graphical User Interface)を有した全く新たなデータ放送が誕生した。その発案者は、(株)ハートネットワーク(愛媛・新居浜市)代表取締役の大橋弘明氏。そして、そのアイデアを形にしたのが(株)メディアキャスト(東京・渋谷区、杉本孝浩社長)だ。両社の取り組みは“使われるデータ放送”の扉を開けた。また、ハートネットワークはメディアキャストの協力を得て、このデータ放送と連動した地域情報をスマートフォンに配信するサービスを7月から開始。(株)ハートネットワークに取材し、地域情報のマルチスクリーン型放送サービスへの取り組みをレポートする。

大橋弘明氏 (株)ハートネットワーク 代表取締役

消されないデータ放送画面 アイコンをオーバーレイ表示

愛媛県新居浜市と西条市をサービスエリアに持つハートネットワーク。ハートネットワークはデジタル化後にデータ放送を開始。大橋氏は「データ放送を利用してもらうためにL字画面を強制表示するなどの工夫で利用定着を図り、一定の成果を得ました。しかし、L字は画面の大半を占めるので、コミチャンの映像が楽しめないとの指摘も一部からありました」と語る。

そこで、「ならば人気のスマートフォンのアプリのような親近感のあるGUIにして、データ放送のメニューをアイコンで表現すれば、さらに利用されるでしょうし、コミチャンも楽しんでくれるのでは」との考えに辿り着き、そのアイデアをケーブルデータ放送で多くの実績とノウハウを持つメディアキャストに伝えた。メディアキャストは「DataCaster M3(データキャスター エムスリー)」をベースに、大橋氏のアイデアを具現化し、ハートネットワークは4月1日、全く新しいデータ放送を誕生させた。「DataCaster M3」は、プログラミング不要で直感的なアイコ

ン操作だけで利用可能なBMLオーサリングツールや、ARIB自動変換機能を備えた高性能なCMS(コンテンツマネジメントシステム)、拡張性に富んだデータ放送送出装置などを統合したソリューションで、ケーブルデータ放送のデファクトスタンダードになりつつあるものだ。地域情報強化のためにも、自由度が高い自社設備でのデータ放送へ切り替えることが有効と判断しての導入だった。

この「DataCaster M3」をベースに構築された新データ放送は、メニューアイコンを放送画面にオーバーレイ表示する。画面左側に「ごみカレンダー」「交通情報」「イベント情報」「休日夜間診療」など、各種データ放送メニューがかわいいイラストのアイコンで表示される。現在、32にも及ぶコンテンツを提供しているが、これらのアイコンは常時上から下へとゆっくりスクロール表示されるため、画面の邪魔にならない。「火災情報」など市役所の緊急メールと連動して

いるものは、緊急時には画面下で右から左へとアイコンが移動し、その後ろに文字情報が表示される。視聴者は観たいと思ったアイコンをリモコンで選択すれば、知りたい情報のデータ放送画面へと移行でき、操作も直観的で簡単だ。「火災情報なら消防車のアイコン、ゴミカレンダーならゴミ箱のアイコンと遊び心があってかわいいイラストにすることで、今まで以上に使ってもらえるようになった。アイコンはゆっくりとスクロールする仕組みで、いつでもメニューが増やせる。これはケーブルテレビのポータル的なチャンネルになるし、広告連動型データ放送にも使えると期待している」(大橋氏)。



ハートネットワークのデータ放送TOP画面。左側に情報をアイコンで表示、緊急時は画面下に情報が表示される。画面右には時計と天気情報も表示

地域情報を自動でスマホへ Google Mapとも連動可能

ハートネットワークは、いち早くWi-Fi/WiMAXに着手し、直近でもホワイトスペースを活用したフルセグ放送の免許を取得するなど、無線事業に積極的に取り組んでいるケーブル局だ。インフラ整備だけでなく、地域住民のためにスマートフォン講座も開講している。今回データ放送用に収集した地域情報をスマートフォンへと発信する新たな試みに着手したが、これもハートネットワークの企業カルチャーからすれば当然のこと。

スマートフォン向け配信を実現したのが、「DataCaster M3」のオプションとして提供される最新機能。データ放送コンテンツ用に収集した情報はCMSに蓄積される。それを専用のスマートフォンアプリケーション（iPhone、iPad、Android端末）へ自動配信。

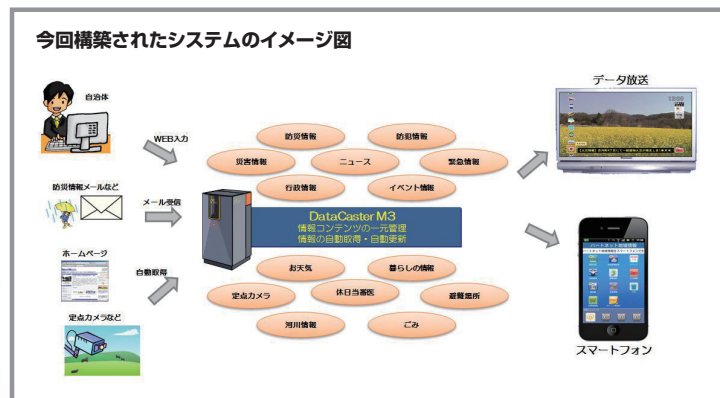
データ放送コンテンツで更新や変更が行われた際も自動的にコンテンツに反映される。

ユーザーは専用アプリをダウンロードし、ホーム画面で知りたい情報カテゴリボタンを任意に選択配置することができる。また、今回のアプリはGoogle Mapとの連動が可能。「お買いもの情報」などでは情報配信された特定の場所へのルート案内が表示される。この他にもランチャースペースにユーザーが複数のアプリやwebリンクを登録できるなど、さまざまな機能が搭載されている。

「地域情報のマルチスクリーン展開は当然の流れ。ハートネットワークでは、全加入者対象のポイントサービス『ポイントクラブ』を行っており、ここで貯めたポイントは提携している地元商店で利用できます。アプリはGoogle Mapと連動し、お店情報もよりわかりやすくなりますし、ポイントクラブの利便性も向上するでしょう。これは災害時にも役立つもの。今回、ホワイトスペースを活用したエリア限定放送

型のケーブルテレビは、今まで以上に地域に軸足を置いていくことが大切。地域情報の発信はケーブルテレビの顔であり、これからはデバイスフリーの時代へと進むでしょう。地域情報強化のためにも地域のインフラ会社として、ネットワークをさらに強化していく必要がある」とし、ハートネットワークでは来秋にも10GのFTTHを完成させる計画だと言う。「今回のデータ放送刷新とスマートフォンへの地域情報発信は、今後に向けてのキーになるアプリでしょう」と大橋氏は語る。

高齢者でも気軽に使えるデータ放送、いつでもどこでも情報にアクセスできるモバイル端末への発信、この2つを連動して行えるこの取り組みは、ケーブルテレビの地域情報発信力を格段に向上させたのではないだろうか。



の免許を取得したのも、災害時における情報発信のためです。有線が寸断されることも想定され、災害時に何より強いのが無線。地域密着



スマホのアプリ画面（上）。
Google Mapと連動して行き方ルートを表示



気軽に使えると評判です

渡邊由佳氏 (株)ハートネットワーク 業務局 企画課 課長

アイコンを画面左側にオーバーレイ表示にしたことで、テレビを見ている人にも邪魔にならず、なおかつ押してみようかと思ってもらえるようになりました。ただ、若者層には慣れたアイコン表示ですが、高齢者にはどうだろう？と若干の不安はありました。しかし、実際はそのような不安は皆無でした。また、データ放送以外でも、朝と昼と夕方には、画面右上に時間や天気予報を表示していますが、これもとても評判が良いですね。全体的に、気軽に使えるデータ放送になりました。

今回のデータ放送構築で力を注いだのが、提供メニューです。新居浜市と何度も話し合い、市民のニーズがどこにあるかを徹底的に

マーケティングしました。たとえば、お母さんなら子ども手当の情報、お父さんなら交通情報と、年齢・性別で欲しい情報は異なりますし、なるべくニーズを満たし、市の情報はデータ放送にあると思ってもらえるようにしつつも、情報過多にならないようにバランスを取ることが大変でした。おかげさまで、視聴者からも行政からも評判が良く、特に新居浜市からは非常に喜ばれ、もっと増やしていきたいと言われています（笑）。現在は新居浜市の情報のみですが、西条市の加入者からも早く提供して欲しいとの要望が届いています。データ放送で提供されている情報は、行政のweb情報やメールと連動しており、自動更新されるので手間がかからないほ



か、情報の追加や削除も簡単で助かります。今回のデータ放送の情報はスマートフォン向けにも提供されるので、お買いもの情報も提供していく予定です。